

子どもの未来応援団報告書（伊那谷再発見）

表題：自分たちの手で、稲を育てて食べよう
 学校・団体名：箕輪中部小学校 5 学年
 活動グループ名：1組 2組 3組
 担当者・教諭名：高木政志 鶴見祐和 佐々木翔大
 活動人数：88 人

（1）活動を始めた理由

稲のもみを見たとき、皮をむいてみたり、固いもみを食べたりしてみた。もみは、かんでいると何となく甘く感じた。これで調理をしてみたいと思ったけれど、このもみを田んぼに植えれば、もっとたくさんのお米がとれて、調理がたくさんできる。お米を育ててみたい。学校の田んぼに行ったら、広くて、草がたくさん生えていた。この草をとって、自分たちが 1 年間、お米を育てる田んぼにしたい。このように願って、稲を育てる活動を始めた。

（2）活動内容・活動の写真（カラー）

		
<p>種もみを、みんなで観察したよ</p>	<p>塩水選 沈んだ種もみが、元気に育つ種もみだ</p>	<p>温湯消毒 熱くて種もみが心配</p>
		
<p>浸水~芽出し 本当に芽が出た！うれしいな</p>	<p>1 か月間、毎日苗のお世話を続けたよ</p>	<p>苗が大きく育ってきた もうすぐ田植えできるね！</p>
		
<p>代掻き こんなに泥だらけになったの初めて！</p>	<p>柴さんに、機械でも起こしてもらったよ 機械ってすごい！</p>	<p>あぜぬりも手でやったよ 水もれしませんように</p>

		
田植え ひもに印をつけて、列を通して植えたよ	アイガモ農法のアイガモが来た。かわいい！	アイガモが、安心して休める小屋も作ったよ
		
鳥よけを作って、ぶら下げたよ	ひえがいっぱい生えちやった 田の草とり、がんばったよ	実が入って、穂がたれてきた！
		
稲刈り 自分たちの手で刈りました	足踏み脱穀機で脱穀	精米機でもみすり、精米しました
		
収穫祭 もちつきをしました	みんないただきました 本当においしかった！	藁を使ってお正月飾りを作りました

(4) 活動結果～子どもの振り返りから～

- ・ 苗を大きく育てることができて、田植えができたことが思い出に残っている。
- ・ 稲刈りや脱穀を、安全にできるようにがんばった。稲刈りも脱穀もすごく大変で、農家さんの苦勞が分かった。
- ・ アイガモがキツネにとられたときはどうしよう、としか思えなかった。もう1回アイガモを迎えて、アイガモ農法を最後までできてよかった。
- ・ 自分たちで育てたからこそ、おもちはずごくおいしかった。これまで支えてきてくださった地域の人たち、親、先生に、感謝したい。